

令和４年度 第２回守山市健康づくり推進協議会

日時：令和４年１１月２１日（月）

午後２時から午後３時３０分まで

場所：守山市福祉保健センター３階講習室

１ 出欠状況

（１）出席者（９名）

岡村会長（リモートによる出席）、福田副会長、岡本委員、飯田委員、朝見委員、藤本委員、小林委員、遠藤委員、黒橋委員

（２）欠席者（６名）

雁金委員、富田委員、中江委員、梶山委員、高田委員、北野委員

（３）事務局（１０名）

健康福祉部 沖田理事

すこやか生活課 森口課長、川中参事、金沢係長、百田主査、大朝主任保健師、中野歯科衛生士、岩波主任

株式会社地域計画建築研究所 廣部氏、渡邊氏

（４）傍聴者 なし

２ 内容

（１）開会

※当日は、岡村会長がリモートによる出席のため、会議の進行については福田副会長が代行。

（２）報告事項

ア 第２次健康もりやま２１に関する市民アンケート調査実施結果について

発言者	内容
事務局	資料１について説明
黒橋委員	守山の特徴や守山らしい結果と思われるところ、また、暮らしぶりなどでも他市と比較して特徴が出ている箇所を教えてください。 11 ページ以降について、70 歳代が増えたり、30 歳代が減ったり、一人暮らしが増えたりなど特徴がでているが、回答された方の基礎的なデータからの守山市の特徴があれば、説明いただきたい。
事務局	本市の特徴としては日常的に運動に取り組まれている方が多いのではないかと考えている。また、生きがい活動を積極的にしている

	が、一方でつながりを求めているとの結果が出ている。健（検）診受診率も徐々に上がっており、これまでの取組の成果が表れているのではないかと考えている。 ２点目については、前回調査よりも今回調査の方が回答者の年代や世帯構成において、国勢調査の結果に近く、市民の意見を偏りがなく反映できていると考えている。
岡村会長	悩み事の相談相手について、性別でも差があるだろう。また、高齢の男性と女性だと異なるのではないか。その点を見る必要がある。 健康づくり促進のために必要なことは、「健（検）診の機会」と「経済的な余裕」が挙げられているが、実際の健（検）診受診状況と付き合わせて見る必要があるだろう。呼びかけるターゲット層を選定することも大事である。
事務局	ご意見を踏まえ、今後分析を深めていく。

(3) 協議事項

ア 健康関連計画の最終評価（案）（重点施策）について

(ア) 第2次健康もりやま21重点プロジェクト

発言者	内容
事務局	資料2-1、2-2について説明
小林委員	スポーツ推進委員に関係する点で言うと、運動を始めるきっかけとして、魅力的なウォーキングマップを作成していただいた。私自身も紹介されたコースを楽しむようにしている。ただ、ウォーキングをする場合、仲間づくりについても重要であり、実際に取り組んでいる団体などについてもご紹介いただきたい。事例として、小学校の各学区で「歩こう会」など。
藤本委員	健康推進員として、野菜を食べよう、減塩しよう、禁煙しようなどの普及啓発をしている。市民は野菜については、考えて食べておられるように思われる。 健（検）診については、受診する時間がないという市民の意見をよく聞く。
黒橋委員	スポーツ、健（検）診などは担当課だけでは推進は難しい。守山市はこれまで、まちづくり推進として健康施策をやってこられた。各部局、関係団体ともコラボしていると思われる。庁内一体の推進体制など検討されていることや実施されていることを教えていただきたい。運動についても観光と組み合わせることや、商工労政に働きかけるなど、多様な組み合わせがあると思う。
事務局	庁内の他課との連携は、平和堂と協働で実施している野菜摂取量測定イベントで商工観光課や農政課、地域包括支援センターとも一緒に様々な啓発を行っている。庁外ではJAをはじめとした関係団体と連携をし、協力をいただきながら推進している。
遠藤委員	ウォーキングの推進について、シューズ、ウェアなどを揃えなくとも運動していることが分かるような、パッチやキャップなどの配布といった仕組みづくりができるとよいのではないか。 道路を歩きやすいように整備をしてもらおうと、運動をはじめるきっかけになるに考えている。
朝見委員	健（検）診はコロナの影響がなければ伸びていたと考えているか。
事務局	平成30年度以前は、受診率は上昇傾向であったが、平成30年度、令和元年度は特定健診の受診率が低下した。健（検）診は不要不急の外出ではないと様々な機会を通じ啓発することにより、徐々に戻

	ってきている状況。
朝見委員	「安全・安心」への取組について広報したり、受診しても感染しないことのエビデンスがあれば、それを提示することで受診率が増えるのではないか。
福田副会長	新型コロナウイルス感染症拡大で、市民病院でも肺がん検診を実施していない時期があり、そのことも影響しているかと思う。
岡本委員	すこやか歯科健診の受診率について、多様な手立てをされている。実施できていない点は年度ごとに洗い出していくなど、制度をプラスして実施することよりも、継続することが重要ではないか。 運動に関しては、しっかりとした運動は難しいが、私自身はウォーキングには取り組んでおり、夜間はLEDの照明を持ち、工夫して歩いている。
飯田委員	薬剤師会として、様々な地域の方々に啓発という形で協力することができる。薬剤師会を通じて、薬局などに何か広報できるチラシなどを置けると考えている。気兼ねなくお声かけいただきたい。
福田副会長	健診受診のインセンティブについて、そのための予算は取れているのか。また、近隣他市ではこのような取組はあるのか。
事務局	県内全市町は把握していないが、栗東市では10月末までに特定健診を受診した方に1,000円のQUOカードをプレゼントする予定。効果は検証中と聞いている。
福田副会長	開業医から健診受診を勧めるのが効果的。我々から案内することを医師会会長に提案していこうと考えている。 女性のがん検診について、教育委員会とのコンタクトは取れているのか。小学生の高学年頃からのがん検診啓発の取組は重要で、若い時から認知していくことが一番大切である。
事務局	防煙教室を各小中学校で実施しており、その際にがんの啓発を実施している。今回、各計画の最終評価のために各課へヒアリングを実施した際に、教育委員会から啓発チラシや案内文の配布の協力ができるとのことであったので、連携していきたい。
岡村会長	運動とスポーツについて、国は成果が出ていなかったが、守山市は良くなっている。なぜ上手く行ったのか、分析してはどうか。一方、60代以降は男性で下がって、女性では増えており、男女間で乖離がある。これは横のつながりの関係なのか。孤独に運動を続けることは難しいので、チーム・グループで進めるのが有効である。

(イ) 第2次守山市食育推進計画重点テーマ

発言者	内容
事務局	資料3-1、3-2について説明
朝見委員	重点テーマの1、2に関連すると思うが、男性や若い人にとって調理は難しい。そうなるとう外食に頼ることになる。最近では中食が充実してきている。市内スーパーなどに協力を仰ぎ、スマートミールの認証を受けるように市からも働きかけるのはどうか。また、社員食堂などの事業所給食施設にもアプローチをしていけば、身近でバランスの取れた食事ができる環境を作ることができるのではないか。 せっかく平和堂でも野菜摂取量測定イベントをしているので、連動した取組を行えば、重点テーマの1、2も改善していくのではないか。
事務局	事業所給食については保健所、商工の関係部署の協力が必要なので、関係各所と協力して連携の可能性を探りたい。
朝見委員	スマートミールのHPをみたら、滋賀県内ではゼロであった。滋賀県で認証が多くなると良いと思う。
藤本委員	健康推進員として、食育の日である毎月19日には野菜摂取や家族での食事などの推奨・啓発をしている。自治会でそういった取組をさせていただければありがたい。また、自治会のサロンで健康推進員の取組をできればと思う。
黒橋委員	生活習慣病の重症化予防については、実績をみると、内臓脂肪症候群の予防・改善のために適切な食事を実践している人の割合は目標値を上回っているが、その中身をみると、野菜摂取や薄味への取組は値が改善していないとなるので、A評価であることに違和感がある。
福田副会長	HbA1cの値が県内ワースト2位にもかかわらず、内臓脂肪予防施策の評価が適切であるのかどうかについて私も引っ掛かった。評価の指標が異なるのか。
事務局	指標に対する目標値が「内臓脂肪症候群の予防・改善のために適切な食事を実践」となっている。大きな要素として各取組も計画通り進んだのでA評価とさせていただいた。ご意見のとおり、野菜の摂取、薄味、果物の摂取、また、HbA1cは県内ワースト3までに近年入っている状況にあるので、評価について再考していきたい。
小林委員	次世代に伝えたい料理について、守山市の伝統野菜を用いた具体的

	な料理の情報提供など積極的にされているのか。
事務局	守山市の伝統野菜等の啓発については、矢島かぶらなど、スーパーに特設の地場産物コーナーや各種団体と連携して直売などを実施している。湖魚の販売にも力を入れており、えびまめやゴリなどの食材・加工品の販売をおうみんちや市内マルシェで販売し、漁協と協力して実施している。鮎ずしの漬け込みの体験もしているが、関心の高い人が参加しており、新規の方や興味の低い方には広がっていない現状である。
遠藤委員	伝統料理は1食分でいいので、これができるというレシピ付きのキットがあると良いのではないかと。 糖尿病発症リスクの高い人には、健康的な食事のチェック表のようなものを作成いただいて毎日実施できるようにしてはどうか。
福田副会長	栄養指導、健康指導は冊子があるのではないかと。
事務局	食事と運動のチェックリストを用いた指導媒体は用意している。特定保健指導参加者へは、本人の目標に沿って半年間記録が付けられるようなものを用意している。
福田副会長	それを積極的に活用してもらうようにしてはどうか。
岡本委員	男性・若年層へのアプローチは難しいが、例えば市内の居酒屋で郷土料理や守山の材料を使ったものを1品でも提供してもらうなど、市内の食事業所へのアプローチはされているのか。
事務局	伝統料理に関しては行っていない。以前、1店につき1品おすすめ料理を出してもらうコンテストを実施したことはある。
岡本委員	店の特色を出してアレンジをしてみてもどうか。店舗を限定して試してもよい。HbA1cは歯周病の増加の一因になるが、なぜHbA1cは守山市で高いのか。
福田副会長	なぜHbA1cが多いのか、現状では原因は分かっていない。
飯田委員	和食の推進について、健診を受けた人へのインセンティブについて議論があったが、例えば野菜をプレゼントしてはどうか。金額としては小さくても良いと思うので、そこにリーフレットやレシピを入れてはどうか。受診率も高くなり、市内の農家も潤うという循環ができないだろうか。
岡村会長	若い人の啓発、つながりを考えると、学校での授業教材を家で持って帰ってもらい、家でも見てもらうのも一手。子どもが教材を持ち帰ると家庭で見られることがある。それを通じて保護者の知識が向上したことがある。学校と連携して取組をしていただきたい。

ウ 部会からの報告事項

(ア) 守山市自殺対策計画重点施策【自殺対策部会】

(イ) 守山市生涯歯科保健計画重点的な取組【歯科部会】

発言者	内容
事務局	資料４、５について説明
岡本委員	歯科部会からは資料のとおりだが、50歳の歯科健診無料化はぜひ予算確保をお願いしたい。 要介護者については、物品購入等も含めて支援策がないか、検討していきたい。
飯田委員	生活習慣病などの啓発冊子を薬局等で置くことができる。介護では訪問看護の方を中心に啓発すれば良い数値が出るのではないかな。
朝見委員	口腔と栄養は関係が深い。しっかりとまとめていただいている。
藤本委員	健康推進員でも口腔ケアのチェックシートを配布して、健康推進員全員で歯周病を勉強しているところである。
黒橋委員	全体に関することだが論点がどう啓発すればよいか、どうアプローチしたらよいかが多かった。理解すれば行動改善するものではない。環境を整えたり、自然にそういうものを買える、もらえるようにしたりなど、健康を支えるような取組も重要ではないか。実践はされていると思うが、論点だけを読むと、「理解したらできる、教えたならやれる」ように感じるので、健康な人づくりとまちづくりの両面があることを見せていくことが重要ではないか。
遠藤委員	働く人への支援、企業では毎年１回ストレスチェックをしている。毎年何人か高ストレス者が出ているが、その人たちが産業医と面談することも少ない。うまく情報を市が吸い上げていただいて、高ストレス者へのアプローチができると良いのではないかな。 歯科健診について、歯科健診だけに出向くことは難しいので、健康診断のオプションで健診会場に来ていただいて、１回で済ませる仕組みができるとよい。
岡本委員	大企業だと健診会場に行くこともあるし、会社の健診票をもってこられて個別の歯科医院で歯科健診を実施することもある。歯科の場合は健診だけで終わることは少なく、そのまま治療をすることが多い。
福田副会長	守山市では、健康診査で歯科健診のオプション等はあるのかな。
事務局	市の事例では実施していない。国民皆歯科健診が国で検討されているということで、歯科部会でも動向を注視しているところである。

小林委員	歯科健診は、広報ですこやか歯科健診の記事を読んで、歯 40 年ぶりに歯科医に行った。市の歯科健診として 1,000 円でお世話になった。市の広報記事を見て機会と捉えて行った。
岡村会長	歯科の活動は重要である。生活習慣病の観点と一緒に取り組んでいただきたい。 自殺対策については、市町村単独で行うと手に余るところがあるので、県や広域的に取り組んでいただきたい。

3 その他

事務局	委員の皆さま、貴重なご意見賜りありがとうございました。 ご意見を踏まえ、今後の施策の検討に役立てていきます。 次回の開催時期は令和 5 年 2 月頃を予定しています。
-----	--